

ロシアのドーピングに対する暴力的な裁定

【訳者注】これは“ロシアの国家主導ドーピング”という欺瞞を、完膚なきまでに暴いた論文と言っていいだろう。現在、世界はこの理不尽で悪意ある物語を呑み込まされ、押し切られている。頭からこれを信ずる人は別として、この異常なロシア叩きのタイミングのよさ（ロシア悪魔化キャンペーンの最中）といい、極端にアコギなやり方（ロシアのパラリンピック選手全員が出られない）といい、尋常でないうさん臭さを感じておられる方は、ぜひこれを読まれるとよい。

これは、悪の権力に対するこの種の挑戦、あるいは世間に対する啓蒙の文章として、模範的なものと言ってよい。相手の主張を含めて、事実を根気よく調査し説明し、反論の余地がないように緻密に論理的に、慎重に議論を構築し、冷静に展開している。

残念ながら、こういう優れた論証があっても、乱暴な議論に押しつぶされる時世である。しかしインターネットが存続するかぎり、我々はこのようなものを手本にして、地道な発信を続けていくよりほかはない。アレックス・ジョーンズが言うように、「あなたがレジスタンスだ、誰が戦ってくれるわけでもない。」

リック・スターリングの RT によるインタビューを下にリンクしておく。

「政治化された報告に基づく、ゾッとするような、恐ろしく不公平なロシア・パラリンピック選手の出場禁止」(Russia Today, August 8, 2016) <http://on.rt.com/7lxn>

Rick Sterling

August 11, 2016, Consortiumnews.com

西側の反ロシア偏見があまりにも強いので、プロパガンダの機会がありさえすれば、いつでも、通常の公平の基準が放棄される。今、リオ・オリンピックにおけるロシア選手の扱いをめぐって、それがもろに現れている。



さまざまなリオ・オリンピックの場面で、醜い反ロシアのムードが見られる。ロシアの水泳選手が、4 x 100 メートル・フリースタイルの競技のためにプールに現れたとき、大きなブーイングが起こった。ロシア・チームがわずかの差で 3 位を逃したとき、アナウンサーは、ロシアは「表彰台から締め出されました」と、うれしそうに言った。

先週日曜日、国際パラリンピック委員会（IPC）が、9月にリオで開催予定のパラリンピックから、ロシア・チーム全体を出場禁止にすると通告した。翌日の AP通信の物語はこのように始まる——「オリンピックからの一括出場禁止を免れたあと、ロシアは、日曜日、“モラルよりメダル”を優先させることでスポーツを汚すドーピングを、国家が行ったことに対する究極の罰として、来るべきパラリンピックから蹴り出された。」

http://www.fortworthbusiness.com/news/entire-russian-team-banned-from-competing-in-rio-paralympics/article_db591e52-5cca-11e6-9d1a-d38184d891ab.html

これは本当のことか、誇張か、それとも虚偽か？ 私はこの論文で、薄弱な根拠に基づいたいくつかの大きな非難が、いかにクリーンなロシア選手への差別を生み出したか、そして本来のオリンピック精神に反する、危険な敵意を生み出したかを示そうと思う。

IPC が、267 人全員のロシア・パラリンピック選手の出場禁止を決定した、大きな根拠になったのは、世界反ドーピング機構（WADA）の7月16日の「マクラーレン（McLaren）報告」と、その中心執筆者リチャード・マクラーレンとの個人的なやり取りである。

<https://www.wada-ama.org/en/resources/doping-control-process/mclaren-independent-investigations-report-into-sochi-allegations>

IPC 総長 Sir Phillip Craven は、非難と道徳的暴言に満ちた 声明 を発表した。彼は言った——「私の考えでは、マクラーレン報告は、すべてのスポーツの歴史において、最も暗い時代の一つを画するものです。」しかし、マクラーレン報告は、深い偏見に根差すものである。ここに、この報告の問題点のいくつかを示そう——

<https://www.paralympic.org/news/ipc-decision-membership-status-russian-paralympic-committee-0>

——それは、主として一人の人物、元モスクワ鑑識課課長 Grigory Rodchenkov の証言を根拠としている。この人物は、ロシアの選手たちからカネをゆすった事件にかかわり、罪を他者のせいにすることに熱心な、事件の主犯である。

——それは、ロシア政府を、その弁護や反対情報を考慮することなく非難している。

——それは、あるロシアの権威者の提出した文書や記録を除外している。

——それは、利益を受けた選手個人を特定することなく、チーム全体に疑惑を投げかけている。

——それは、ロシア人の違反が例外的ではないことを示す WADA の編集した統計的データを、無視している。

——それは、量的測定値の出どころを挙げていない。

——それは、証拠をもっていると主張するが、それを明らかにしていない。

マクラーレン報告の詳細な批判は、[Sports Integrity Initiative](#), [Consortiumnews](#), [Counterpunch](#), [Dissident Voice](#), [True Publica](#), [Global Research](#), [Telesur](#), その他のサイトに出ている。<http://tinyurl.com/zsddpuk> <http://tinyurl.com/hanfv9a>

集団処罰

なぜパラリンピック・チーム全体を出場禁止にしたかについての、IPC の説明は、次の非難に要約できる——「ロシアのスポーツ界に存在する、国家主導によるドーピング計画は、残念なことに、ロシアのパラリンピックにまで拡大している。この事実は心の痛むことであり、それは、スポーツで競争するすべてのクリーンな選手に対する、前例のない攻撃である。ロシアの反ドーピング組織は崩壊し、腐敗し、全体が危機状態に陥っている…。

「ロシアのスポーツを汚染しているドーピング文化は、ロシア政府から発するもので、今は1つだけでなく2つの、独立した WADA の委嘱による報告によって明らかになった。…私は、ロシア政府が、そのパラリンピック選手を、立ち上がれないほどに裏切ったと考える。彼らの“モラルよりメダル”という精神は、私に嫌悪感を与える。反ドーピング組織の完全な腐敗は、ルールに逆らうものであり、パラリンピック・スポーツ精神の根幹に打撃を与えるものだ。」

これは強い言葉による非難だが、選手に対するものでなく、ロシア政府に対するものである。ロシア政府を罰するための手段として、ロシアのパラリンピック選手たちが集団的に罰せられているようだ。

しかし事実はどうなのか？ まず、ロシア選手の一部が、禁止されたステロイドとか、他の成績を上げるドラッグ (PED) を用いたことがあるのは事実である。[Hajo Seppelt](#) による調査ドキュメンタリーは、ロシアの選手たちが PED を使ったことを認めたこと、資格停止されたコーチがこっそりコーチを続けていたこと、また別の資格停止コーチが禁止ドラッグを取引していた、といった例を暴露している。

https://en.wikipedia.org/wiki/Hajo_Seppelt

もう一つの事実は、この問題は、すべてとは言わないまでも多くの国に、特にプロ・アスレチックスが大きな事業となって以来、存在していることである。WADA のデータは、多くの国が、かなり重大な件数のドーピング違反を犯していることを示している。

<https://wada-main-prod.s3.amazonaws.com/resources/files/wada-2014-adrv-report-en.pdf>

エリート選手によるドーピングは、ロシアではかなり浸透していると主張されているが、これは本当だろうか？ これに正確に答えるには、センセーションを求めるメディア報道でなく、客観的な調査を必要とする。今問題になっている論争においては、非難や思い込みは、メディア報道（ARD ドキュメンタリー、“60分リポート”、NYタイムズ・ストーリー）を通じて、ほとんど調査もなく拡散した個人的な逸話や証言に、大きく依存している。

非難の内容とは逆に、WADA によって作成された科学的データでは、ロシアの選手は国際的な、承認されている実験室において、陽性のドラッグ・テスト反応の、かなり低い率を示している。最大の疑問は、ロシア政府が果たして、禁止されたドーピングの“スポンサー”になっていたのか、それとも監視していたのかということである。この非難報道は繰り返され、今では広く本当だと思われている。

<https://wada-main-prod.s3.amazonaws.com/resources/files/wada-2014-adrv-report-en.pdf>

しかしその証拠は、説得力があるというには程遠いものである。非難は大きく 3 人の人物の証言に基づいている——選手たちをゆすっていた主犯で首謀者のグリゴリー・ロドチェンコフ、それに“警告者”の Vitaliy と Yulia Stepanov 夫妻である。ステパーノフ夫妻は、この話題についての“60分”呼び物番組のスター証人だった。

<http://www.cbsnews.com/news/60-minutes-russian-doping-at-sochi-winter-olympics-exposed/>

その報道には事実の間違がある。それは間違っ、ビターリのことを「ロシア反ドーピング機構 RUSADA の下級の仕事」についていたと言っていた。現実には、彼は総裁のアドバイザーで、スポーツ大臣に近い人物で、ドーピング担当役人のトレーナーをやっていた。

“60分”番組のストーリーもまた、ビターリが、彼の妻のドーピングに直接かかわっていたという重要な事実を、省いていた。セッペルトの調査ドキュメンタリー「ドーピングの秘密」(The Secrets of Doping)によれば——「最初、ビターリは、彼の妻のドーピングを直接手助けさえしていて、ドラッグを手に入れ、一種の二重生活をしている」(5:45) これら

の非難には、政治的偏見があるかもしれないという議論の参考として、3人の証人（ロドチェンコフとステパーノフ夫妻）とも、現在アメリカに住んでいる。

<https://www.youtube.com/watch?v=iu9B-ty9JCY>

ロシアの国家主導によるドーピングの“証拠”は、著しく希薄な根拠の上に立っている。その主たる主張は、スポーツ省次官が“保護されている”選手の陽性反応を、隠滅せよという指令をeメールした、というものである。マクラーレンは、これを証明する“電子データ”とeメールをもっていると主張している。が、彼はこのeメールを見せたことがない。

もしこのeメールが確かなものなら、それは破局的であろう。スポーツ省の役人はどのようにそれを説明するだろうか？ ドーピング・テストのサンプルを、“隔離せよ”とか“救済せよ”と言ったという奇妙な指令について、彼らはどんな言い逃れができるだろうか？ 驚き呆れることに、マクラーレンは彼らには訊ねないことにしたと言い、それでもなお、彼は、持っているという証拠を示したことがない。

瓶をいじった？

もう一つ疑問があるのは、“いじれない” (tamper proof) 瓶をどうやって開け、中身を取り替えたかという問題である。ロドチェンコフの説明は、彼らは真夜中に、FBS (KGBの後継機関) と共謀して、“汚い”尿を“きれいな”尿に取り替えたというものだ。ロドチェンコフは、彼らは、いじれないようになっている尿サンプルの瓶を、開ける方法を見つけたのだと言う。しかし、スイスの製造元 Berlinger は、自社の製品を保証し、ロドチェンコフ/マクラーレンの話の確かさを効果的に論駁している。

<http://www.berlinger.com/drug-and-doping-control/products/bereg-kitr-for-human-tests/>

マクラーレン報告が発表されて以来、ベルリンガー社は声明を発表してこう言った――

――マクラーレン調査報告にある、いくつかのこの種の瓶を開けることができたという言明に対して、Berlinger Special AG は、現在のところ、どんな権威ある反応も示すことはできない。

――ベルリンガー・スペシャル AG は、現在のところ、マクラーレン委員会によって行われたテストや実験にかかわる、特殊技術、方法、または手順について、どんな知識ももっていない。

――ベルリンガー・スペシャル AG は、そのドーピング・キットについて、独自の通常

再検査を行うとともに、スイス政府によって認可された独立機関に、その製品のテストと確認を依頼している。

——その独自のテストでも、スイスの独立した研究所によるどんなテストでも、いかなる封印されたベルリンガー・スペシャル AG の尿サンプル瓶も、開封可能と判明したことはない。

——これは「Sochi 2014」のサンプル瓶モデルについても当てはまる。

——ベルリンガー・スペシャル AG の専門家は、いつでも、当社のサンプル瓶の一つが、手を加えたものか、不法に複製されたものかを決定することができる。

マクラーレンは、ロシア人がどうやってこの瓶を開けたのかは知らないが、ある人が自分でそれをやってみせたので、それが可能なことは知っている、と言っている。マクラーレンの主張とは逆に、ベルリンガー社ははっきりとこう言っている——

「その独自のテストでも、スイスの独立した研究所によるどんなテストでも、いかなる封印されたベルリンガー・スペシャル AG の尿サンプル瓶も、開封可能と判明したことはない。これは“Sochi 2014”のサンプル瓶モデルにも当てはまる。」

もしマクラーレンの主張が本当なら、なぜ彼はこれを製造元と議論しないのか？ もしマクラーレンの主張が本当なら、ドーピング・テストのサンプルが交換できないように、この製品の弱点を示してみせることが、何よりも重要なことではないのか？

マクラーレンはさらに、「タンパー・プルーフ」の瓶がいつ開けられたかを、瓶のキャップの内側の“しるしと搔き傷” (marks and scratches) によって、犯罪科学的に決定することが可能だと言っている。彼の報告は、これらの“しるしと搔き傷”がどんなものかを示す写真を載せていない。またそれは、そのしるしや搔き傷が、キャップを締めるときの溝違い (cross-threading) や戻し (backing off) のような、何らかの別の力が加わった結果である可能性については考えていない。

この方面でも、マクラーレンは明らかに、自分の見解をスイスの製造者によって確かめていない。会社がこう言っている事実にもかかわらず——「ベルリンガー・スペシャル AG の専門家は、いつでも、当会社のサンプル瓶の一つが、手を加えたものか、不法に複製されたものかを決定することができる。」

もしマクラーレンの“しるしと搔き傷”の専門家の見解が正確なら、なぜ彼はベルリンガーの専門家から確認を取らなかったのか？ おそらくそれは、ベルリンガーがマクラーレンの主張に反論して、「我々のキットは安全が確保されている」と言っているからであろう。
<http://www.nydailynews.com/sports/more-sports/swiss-company-defends-urine-sample-bottles-sochi-olympics-article-1.2636215>

IPC の決定は、事実自体を疑われているマクラーレン報告に、大きく依存している。IPC 声明は、マクラーレンの瓶の蓋の“しるしと搔き傷”の専門家は、「国家の指令による謀略がロシアのパラリンピック選手を巻き込んだという主張を傍証している」と、間違った主張をしている。

暴力的裁定

IPC 報告には、ロシアで広く行われているドーピング操作を示すとされるデータが含まれていて、こう言っている——「マクラーレン教授は、35 のサンプルにつながる選手たちの名前をあげ、…そのサンプルのマークが、QUARANTINE (検疫隔離) だったか、SAVE (救済) だったかを明らかにしている。」これら 35 のサンプルは、おそらく、マクラーレン報告の 41 ページに、「消えた、ロシア・スポーツ省選手の陽性テスト結果」と言っているものと同じ、パラリンピックの 35 人であろう。

このデータの出所は明示されていない。しかしそれは、2012 年から 2015 年間のテストをカバーしていると考えられる。マクラーレンは別の 10 のサンプルを挙げていて、これは 44 人の選手に対する 45 のサンプルということになる。

そこで次に、これらのサンプルのうち 17 は、実は、IPC の管轄するスポーツからのものではないと説明されている。すると実際には、27 人 (44 マイナス 17) の選手が巻き込まれていたことになる。しかし、もう一つ辻褃の合わないことに、IPC 声明は、これらのサンプルのすべてが、モスクワ鑑識課によって“救済”のマークをつけられたのではないと言っている。それは、“少なくとも” 11 のサンプルと選手に対してのみ行われたことになる。

もし IPC の最終的な数が正しいなら、この委員会が確認したのは、11 人のパラリンピック選手が、2012 と 2014 の間に陽性反応が出たが、彼らを出場させるための措置として、その結果を“消して”もらったということである。もしそれが事実なら、これらの選手は出場を保留か、禁止すべきであろう。そうしないで、IPC は、267 名のロシア・パラリンピック・チーム全体を出場禁止処分にした。

マクラレン報告は性急な裁定をしたようである。この報告が出されたのは、グリゴリー・ロドチェンコフに基づいた、センセーショナルな NY タイムズ・ストーリーと、ステパーノフ夫妻に基づいた“60分”番組の後でのことだった。リチャード・マクラレンは、彼の調査がまだ半分も終わらないうちに、IAAF に対し、ロシア・チーム全体の出場禁止を勧告していた。

マクラレン報告は、そのあらゆる欠陥や弱点にもかかわらず、数週間前 7 月 16 日に発表された。その後 8 月 7 日、ICP は、ロシアのパラリンピック・チームを、9 月のリオ・パラリンピックから締め出す決定をした。

IPC 声明は、この決定を最終的に出すまでに、「ロシア・パラリンピック委員会が、彼らの言い分を IPC に提出できるように、十分な時間を与えた」と主張している。ロシア・パラリンピック委員会は IPC の前に出頭したが、彼らが、自分たちの主張を述べる時間、あるいは非難の詳細を知るだけの十分な時間さえ、あったかどうか疑わしい。

要するに、マクラレンとクレイヴンによる、ロシアの“国家スポンサー・ドーピング”の告発は、ほとんど確かな証拠をもたない。にもかかわらずこの非難は、何百というクリーンな選手を、オリンピックとパラリンピックから締め出す結果となり、現在、オリンピック大会で起こっている、醜い“反ロシア”的偏見と差別に寄与している。

これは、紛争や差別でなく、国際的平和を推進するためのオリンピック運動の目的に、違反するものと考えられる。https://stillmed.olympic.org/Documents/olympic_charter_en.pdf

(リック・スターリングは調査ジャーナリスト、連絡先は、rsterling1@gmail.com)